

山城北保健所管内の感染症発生動向調査

(ARI定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

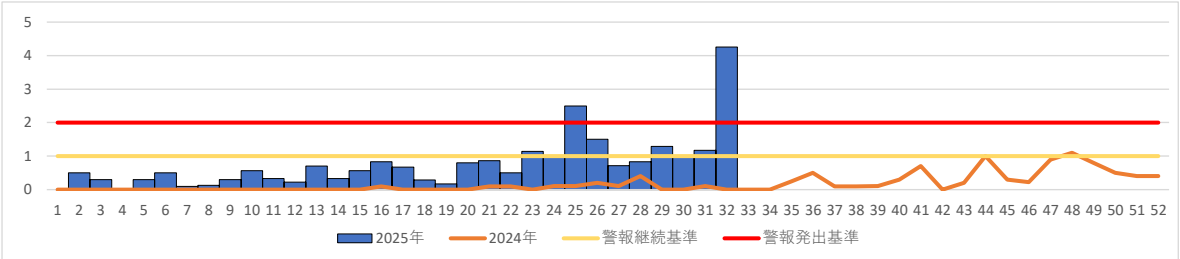
2025年 第32週 (8月4日～8月10日)

今週のコメント

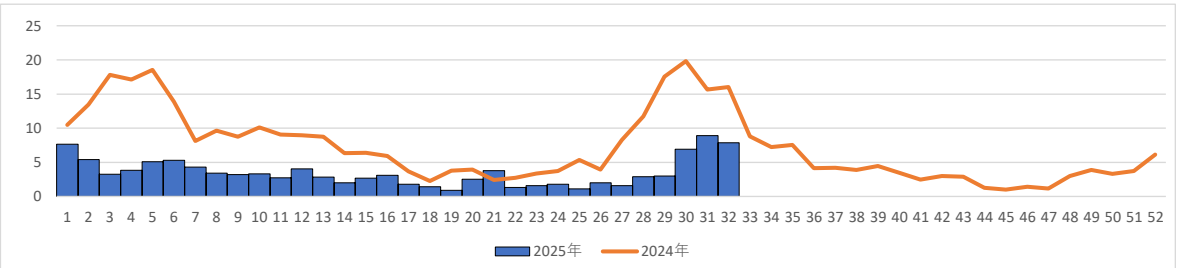
- 「伝染性紅斑（リンゴ病）」の山城北保健所管内の定点当たりの報告数が4.25（31週1.17）と警報レベルを超えています。これまで感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。妊娠中の方やその家族に伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。
- 「新型コロナウイルス感染症」の定点当たりの報告数は7.86（31週8.89、30週6.89）と横ばいで推移しています。高齢・障害者施設での集団感染の報告も増えており、手洗いや手指消毒、換気等の感染症予防を行いましょう。
- 「百日咳」が全国的に流行しており、京都府・山城北保健所管内でも例年に比べて報告数が多くなっています。長引く咳には注意し、乳幼児は予防接種を確実にに行いましょう。

今週の注目グラフ

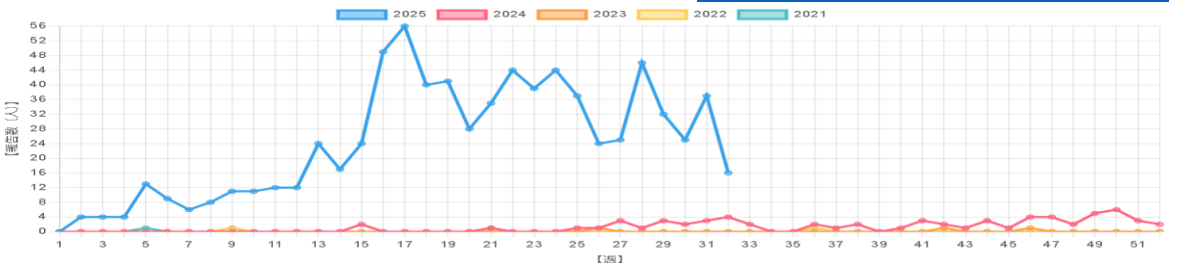
伝染性紅斑（定点把握疾患）山城北保健所管内週当たり報告数 参考 https://www.pref.kyoto.jp/idsc/old/palbob19_2.html



新型コロナウイルス感染症（定点把握疾患）山城北保健所管内週当たり報告数



百日咳（全数把握疾患）京都府週当たり報告数（5年間比較） 参考 <https://www.pref.kyoto.jp/idsc/old/pertussis4.html>



定点把握疾患 <特定の医療機関（定点医療機関）を定め、その医療機関を受診した患者の数を基に、流行状況を把握>

疾患名	定点あたりの報告数（前週比）	疾患名	定点あたりの報告数（前週比）
インフルエンザ	— (0.00)	手足口病	1.50 (0.75)
新型コロナウイルス感染症	7.86 (0.88)	伝染性紅斑	4.25 (3.63)
RSウイルス感染症	0.75 (2.27)	突発性発しん	0.25 (1.47)
咽頭結膜熱	0.25 (0.17)	ヘルパンギーナ	2.50 (0.65)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50 (0.69)	流行性耳下腺炎	— (0.00)
感染性胃腸炎	3.75 (1.25)	急性出血性結膜炎	— (0.00)
水痘	0.25 (0.50)	流行性角結膜炎	0.50 (1.52)

定点あたりの報告数 = 1週間の報告件数 / 定点数

警 報：1週間の定点あたり報告数が、ある基準値（警報の開始基準値）以上の場合に発生します。

前の週に警報が発生していた場合、1週間の定点あたり報告数が別の基準値（警報の継続基準値）以上の場合に発生します。

注意報：警報が発生していないときに、1週間の定点あたり報告数が、ある基準値（注意報の基準値）以上の場合に発生します。

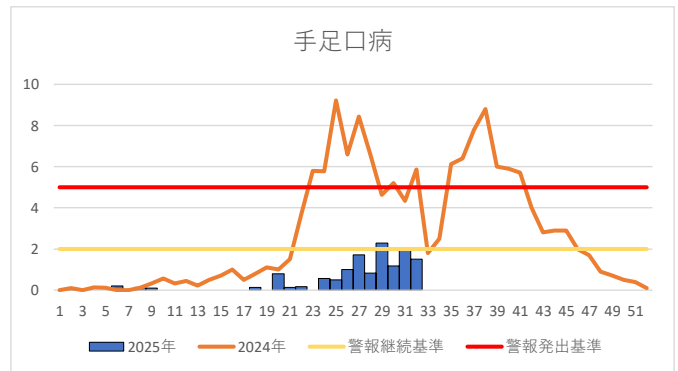
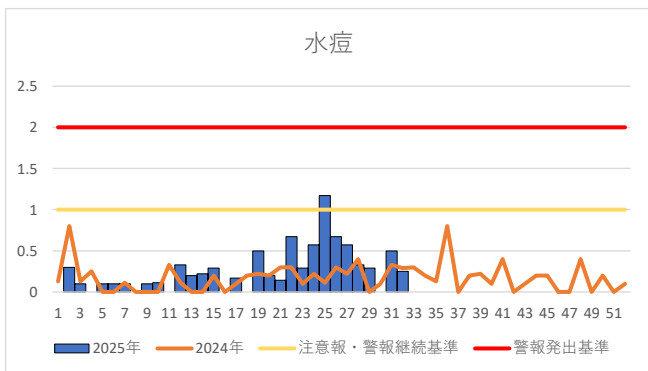
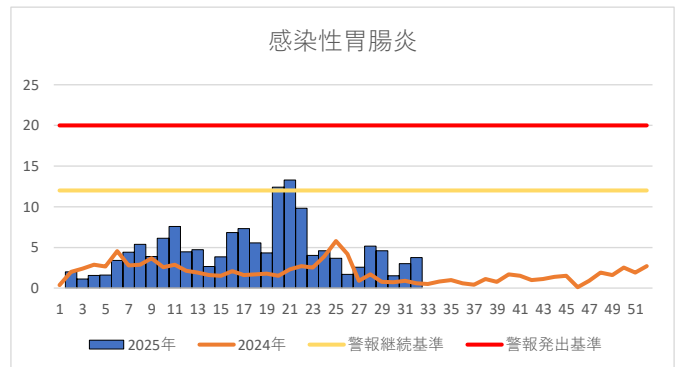
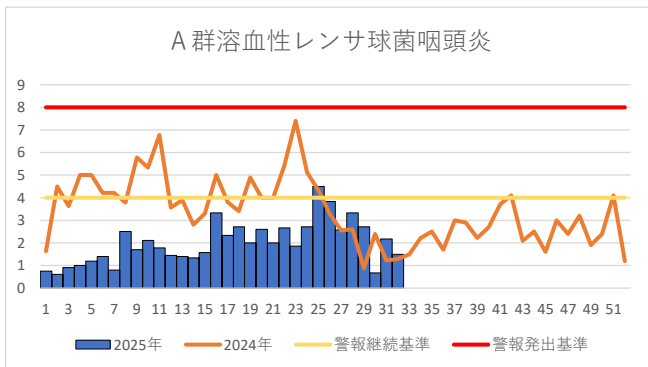
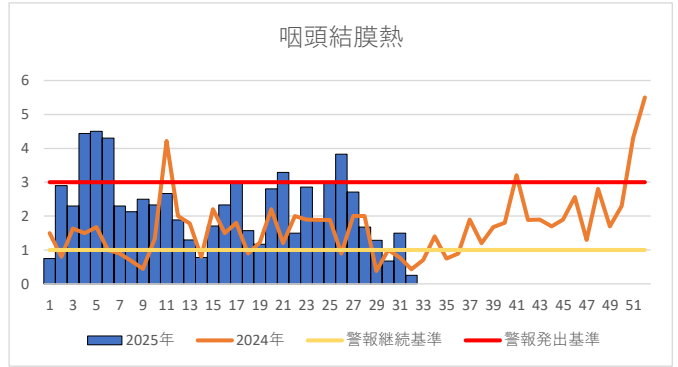
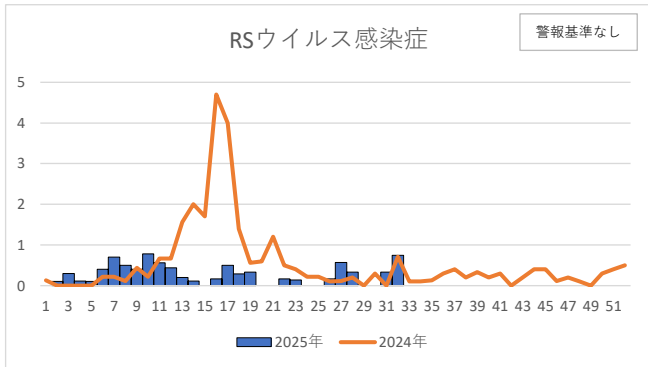
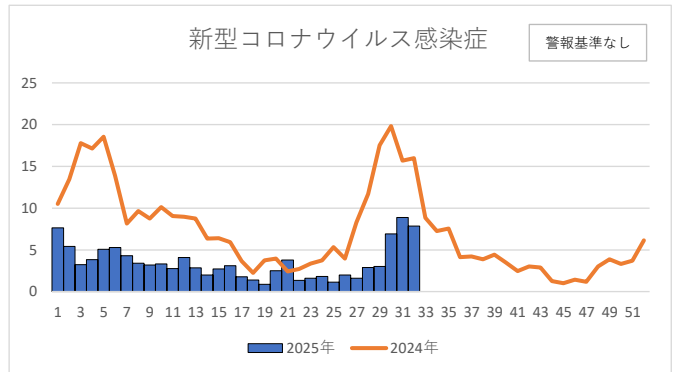
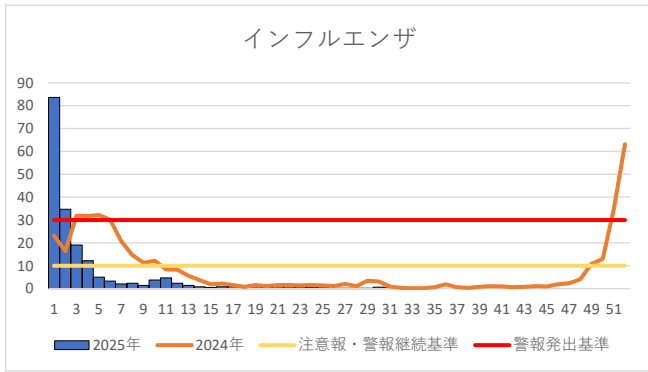
全数把握疾患 <全ての医療機関から医師の届出が義務付けられている感染症>

分類	報告
1類感染症	報告なし
2類感染症	報告なし
3類感染症	報告なし
4類感染症	報告なし
5類感染症	ウイルス性肝炎(1件)、百日咳(2件)

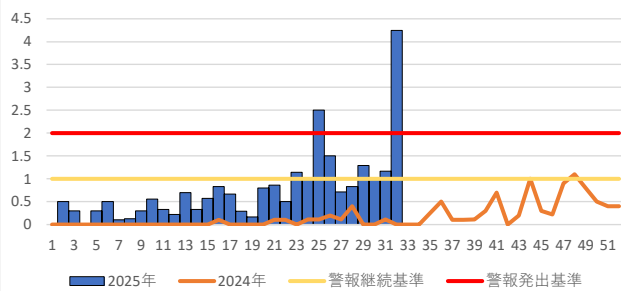
※このデータは速報値であり、今後変更等が行われる可能性があります。ご了承ください。

参考：京都府感染症情報センター <https://www.pref.kyoto.jp/idsc/>

山城北保健所管内定点当たり報告数推移

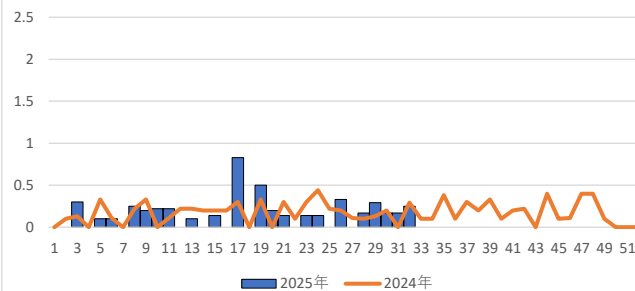


伝染性紅斑

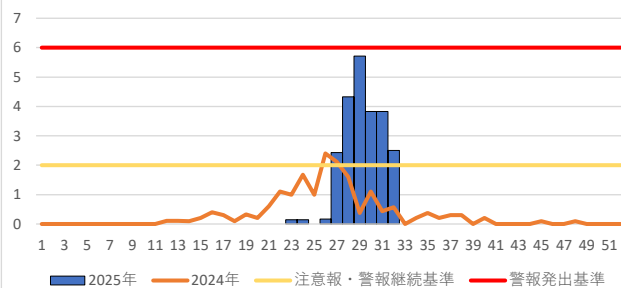


突発性発しん

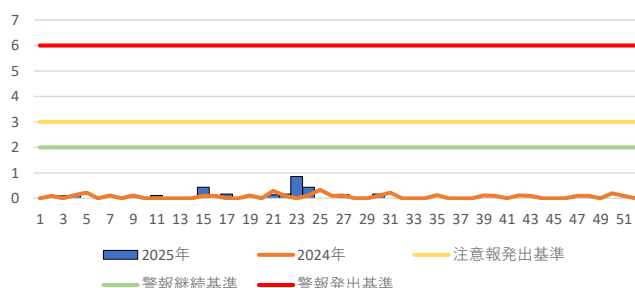
警戒基準なし



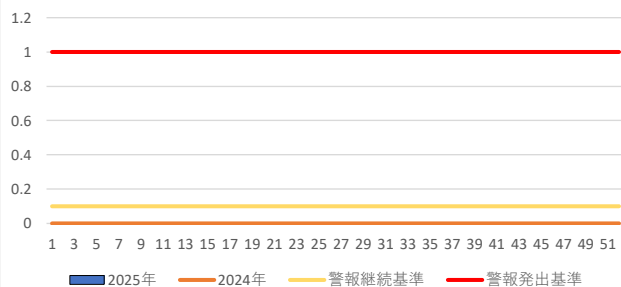
ヘルパンギーナ



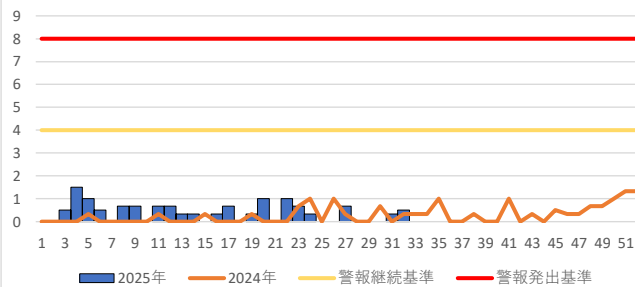
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎



流行性角結膜炎



急性呼吸器感染症（ARI）とは

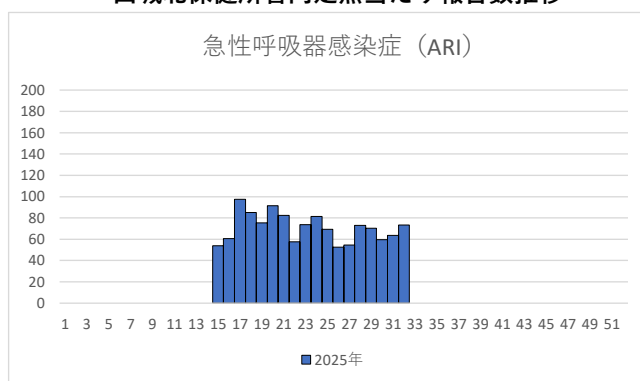
急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

令和7年4月7日からARIが感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。以下の症例定義（※）を満たす場合に報告対象となることから、インフルエンザやCOVID-19等と診断された場合でも、ARIの症例定義の症状があれば両方の報告対象となります。

※ 咳嗽(がいそう)、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁(びじゅう)、鼻閉(びへい)のいずれか1つの症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

	定点あたりの報告数（前週比）
急性呼吸器感染症（ARI）	73.40（1.15）

山城北保健所管内定点当たり報告数推移



※ 急性呼吸器感染症：2025年4月7日から集計を開始

参考：京都府感染症情報センター 京都府におけるARI発生状況

<https://www.pref.kyoto.jp/idsc/old/ari.html>